

科研バックエンド問題研究会  
「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」  
第10回研究会

価値選択の等閑視と「立地問題化」:  
日本の高レベル放射性廃棄物処分政策が抱え込む根源的課題

主催: 早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催: 早稲田大学アジア太平洋研究センター(WIAPS)(予)

### 1. 趣旨

本研究会ではこれまで、高レベル放射性廃棄物(HLW)処分の社会的受容性に関する議論をおこなってきた。日本においては2000年の最終処分法成立から17年が経過したが、HLW処分政策の具体的な進展はみられない。特に、2011年の福島原発事故後は国の原子力政策に対する社会的信頼が失われており、HLW処分政策フレームに対する抜本的な見直しが必要とされている。こうした状況を受け、政府は国が前面に立ったHLW処分政策の推進方針に転換し、本年7月末には最終処分地に関する科学的特性マップが提示された。科学的特性マップの提示だけで、政府の期待する最終処分地選定に関する国民的議論が進むのかどうかは不明である。

第10回研究会では、経済産業省総合資源エネルギー調査会・電力ガス事業分科会・原子力小委員会・放射性廃棄物WGメンバーとして、国のHLW処分政策や科学的特性マップに関する議論に参加されてきた東京電機大学の寿楽浩太准教授をお招きし、HLW処分と社会的価値選択との関係などについてお話しいただき、HLW政策の課題や今後の地層処分政策と社会との関係について検討する。

なお、本研究会は科学研究費補助金・基盤研究(B)(16H03010)「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」(研究代表者:早稲田大学教授・松岡俊二、平成28年度~平成30年度)に基づくものである。

### 2. 日時・会場

日時: 2017年11月20日(月) 18:00~20:00

会場: 早稲田大学(早稲田キャンパス)19号館7階713会議室

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

### 3. 内容

司会: 松岡 俊二(早稲田大学アジア太平洋研究科・教授)

報告: 寿楽 浩太(東京電機大学工学部・准教授)

価値選択の等閑視と「立地問題化」: 日本の高レベル放射性廃棄物処分政策が抱え込む根源的課題

討論: 師岡 慎一(早稲田大学理工学術院・特任教授)

松本 礼史(日本大学生物資源科学部・教授)

### 4. 申込先: 会場設定などの関係上、参加を希望される方はメールで事前連絡ください。

【宛先】 [jyuten-fukkou@list.waseda.jp](mailto:jyuten-fukkou@list.waseda.jp) (※を@ (半角) にして送信ください)

【件名】 11/20 研究会参加申込

【内容】 1. 氏名(フリガナ) 2. ご所属 3. メールアドレス